

■招詞 詩編 68:20-21 「主をたたえよ／日々、わたしたちを担い、救われる神を。この神はわたしたちの神、救いの御業の神／主、死から解き放つ神。」

■礼拝の祈り

天におられるわたしたちの父なる神よ、

<礼拝の招きへの感謝>

緑が萌え出るこの時、今日もわたしたちを礼拝に招いてくださり、ありがとうございます。働きもせず、紡ぎもしない野の花を育て、装わせてくださるあなたのみ名を賛美いたします。自然の美しさをもってわたしたちを豊かにしてくださるだけでなく、あなたはわたくしどもに、なくてはならない家族、仲間、信仰の友を与えてくださいました。それらの人々の支えなしには、ここに集うことができなかったことを改めて思います。

<神の御前での罪の告白と悔い改め>

イースターの主のご復活のあの喜びの祝いが、ここにもこうして主の日の礼拝として続いていることを確かにしながら礼拝をささげようとしています。しかし、振り返りますと、今、ここで知らされている感謝の心がなぜ毎日の生活を作らなかったのかと思わざるをえません。なぜあなたの祝福に委ねきって生きることができなかったのかと改めて思われます。あなたの恵みへの確信と平安がなかったから、不機嫌になって、周りの人を傷つけて平然とし、なすべき愛の務めを怠って、それをよしとし、さまざまな言い訳を見つけることばかりに心を費やしてしまいます。今、あなたのみ前にたたされ、自分の愚かさを恥じるしかありません。

<御言葉が語られ、聞かれるため、聖霊の働きを求めて>

しかしそれでも、あなたは、そのようなわたしどもを、変わらない恵みをもって生かしてください。その恵みの名かに素直に立ち帰ることができますように。主イエスは徴税人であり罪人を招いてともに食事をなさいました。「医者が必要とするのは、病人であり、・・・わたしが来たのは、罪人を招くためである。」とおっしゃいました。あの出来事が、主イエスがわたしたちに出会い、招いてくださる出来事として、わたしたちのこの礼拝においても、おこりますように。わたしたちも、主の招きに喜んでお答えしたいと願います。主イエスの救い、赦しを必要とする罪人であることを認め、主の前に礼拝をおささげすることを喜びといたします。今、わたしたちのための生きる糧である御言葉をいただきたいと願います。心の扉を開いて、御言葉が私たちの中に訪ねてくださることを喜びます。また、私達の方が御言葉の中に入れていただいて、一つとしてくださることを喜びます。本日は主の食卓に招かれています。この主の大いなる恵みをいただき、新しい命に喜んで生きる者としてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

■教会の祈り

<礼拝感謝・聖餐感謝>

聖餐に与ることができ感謝いたします。主イエスがその身をさき、血を流してくださった救いのできごとをまことに受け取らせていただきました。恵みを感謝いたします。聖餐によって主と一つとされ、教会の枝とされて、ますます恵みを受け入れ、感謝の生活ができますよう導いてください。ふさわしくなかったわたしたちは、今やひたすら主の大いなる恵みによって生かされています。悔い改めて主のみを見上げて歩ませてください。

<教会総会を祈りの場としてください>

本日は礼拝後、教会総会を行います。昨年度の恵みを数え、今年度の計画を立てます。どうか恵みを数えることも道を求めることも祈りとして行うことができますように。この総会を祈りの場としてください。

<困難の中にいる人を助けてください>

心や体に病、悩みがある人を癒やしてください。先への不安、生きることへの意味を見失っている人に光を与えてください。すべての者あなたの救いを必要としています。どうか主イエスのまことの慰めを与えてください。今日御言葉を聞きましたわたしたちが、まことの主の慰めをたずさえて、困難の中にいる人達とともに歩むことができますように、わたしたちをあなたのこの御用のためにお用いください。互いに祈り合い、また福音を外へと伝える群れとして歩むことができるようにしてください。

<祈り深く歩ませてください>

一週間をあゆみはじめます。この一週間、祈りつつ過ごすことができますように。祈り深く歩ませてください。

■祝福

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。